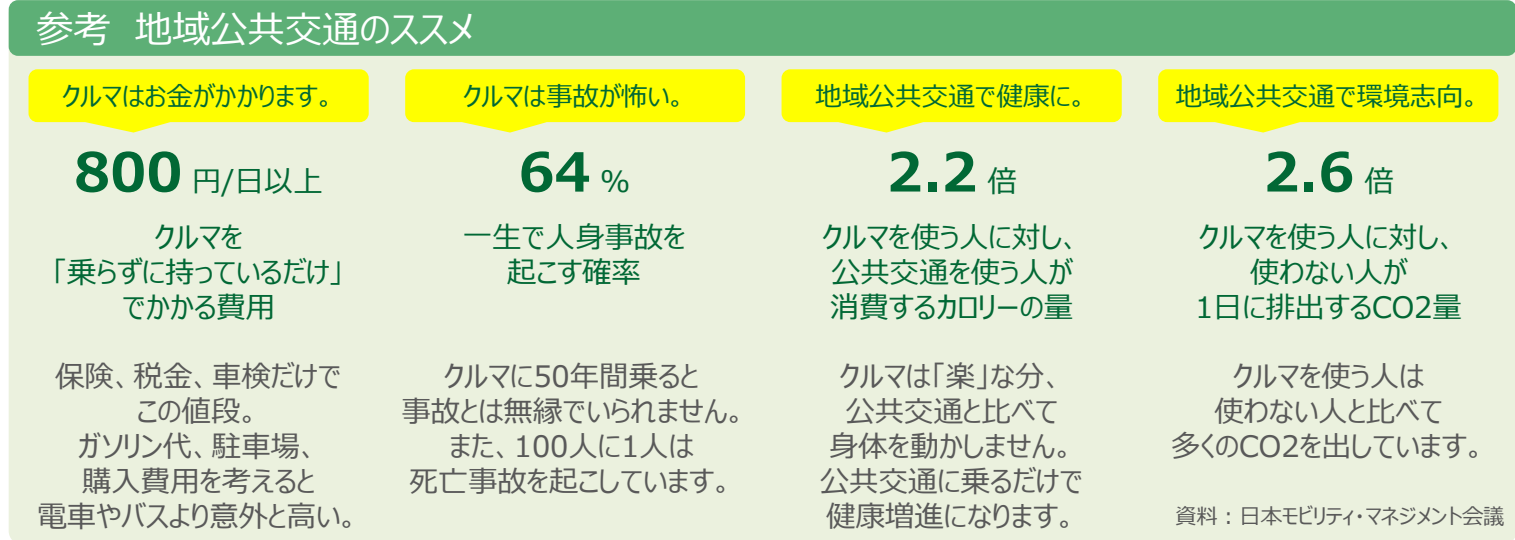
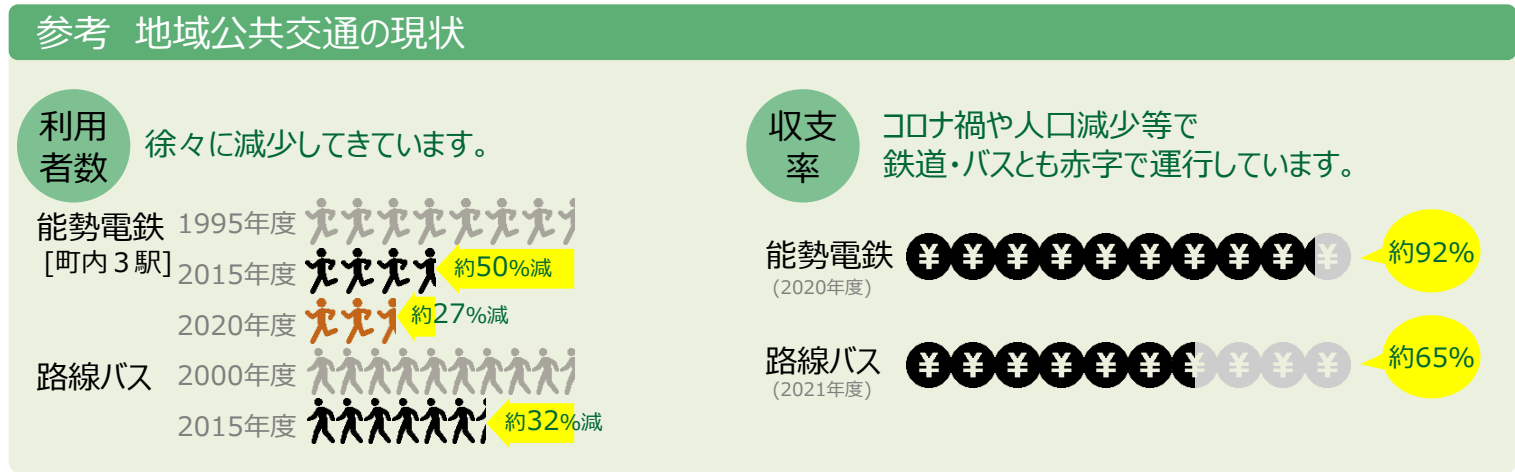


数値指標

- 「豊能町地域公共交通会議」で継続的に検証・見直しに取り組みます。
- 次の数値目標を定め、計画の推進と進捗管理を図ります。

モード	数値指標	(年度)	単位	2019	2020	2021	2022	2028目標
能勢電鉄	利用者数(町内3駅乗降者数)		人/日	6,541	5,369	5,186	5,175	6,541
	能勢電鉄線の収支率		%	107	92	92	106	100
路線バス	利用者数		千人	2,276	1,800	1,810	1,900	2,276
	収支率		%	79	66	63	68	79
	豊能町負担額(豊能西線)		百万円	10	10	10	30	30
デマンドタクシー・AIオンデマンド交通	利用者数		人/年	令和4(2022)年7月1日のデマンドタクシー再編、				
	収支率		%	令和4(2022)～5(2023)年度のAIオンデマンド交通(HANI+)実証実験結果等を踏まえて設定				
	豊能町負担額		百万円					



基本方針

A

幹線・支線ネットワークでいつでもどこでも移動したくなる地域公共交通

地域公共交通のベストミックスにより、町内外を結ぶ「幹線」と、町内を循環する「支線（フィーダー）」の役割分担を明確にすることで、利便性の高い地域公共交通ネットワークを構築します。

施策A-1 幹線の利便性向上と維持確保改善

鉄道の利便性向上と維持確保改善

- 鉄道の運行と改善
- 駅周辺の利用環境改善



能勢電鉄車内

路線バスの利便性向上と維持確保改善

- 路線バスの運行と改善
- 行政による運行費補助
- ◆ 国土交通省「地域公共交通確保維持費国庫補助金（地域間幹線系統）」の活用（豊能西線 光風台駅～箕面萱野駅）



希望ヶ丘を運行する阪急バス

施策A-2 町内移動の維持確保改善（支線、福祉交通）

町内における支線（道路運送法第4条）の維持確保改善

- デマンドタクシーの運行、再編
- 乗用タクシーの維持確保
- ◆ AIオンデマンド交通の導入
- ◆ 国土交通省「地域公共交通確保維持費国庫補助金（地域内フィーダー系統）」の活用



福祉交通との連携・役割分担

- 障害のある方等の移動手段確保にむけた福祉交通の運行（おでかけくん等）
- 豊能町役場庁内の地域公共交通部署・福祉部署間での連携



おでかけくん

基本方針

C

まちの新たな価値を広める地域づくりと連携した地域公共交通

“魅力にあふれるまちづくり”構築にむけ、都市づくりや観光振興等と連携したサービスを創出します。

施策C-1 鉄道駅や主要停留所周辺のまちづくり推進

駅や主要停留所の拠点性向上

- 駅・停留所への待合スペース確保
- ◆ 駅・停留所周辺施設における待合スペース確保の検討



待合室を備えた妙見口駅

駅・主要停留所周辺のまちづくり

- ◆ 地域情報の発信・地域資源の提供が可能な憩いの拠点づくり（光風台中央公園）

施策C-2 まちの拠点や居場所づくり、観光振興

まちの拠点や居場所づくりによる外出目的の創出

- 生涯学習等による外出目的の創出（高齢者向け講座「ウグイス大学」等）
- ◆ 来訪者へまちの魅力やコンテンツを発信するための情報コーナーや、休憩・飲食などができる機能を備えた拠点づくり

地域公共交通と連携した観光振興

- ◆ 妙見口駅周辺の観光施策との連携検討
- ◆ 地域公共交通と連携した観光施設アクセスやハイキング等の情報PR



廃止を控えて混雑する妙見の森ラト



廃止されたバス停留所は妙見山で保存

基本方針

B

スマートで人と環境にやさしい地域公共交通

ICT・IoT技術を活用したスマートシティへの取組みと連携し、使いやすい持続性の高い地域公共交通サービスを創出します。

施策B-1 AIオンデマンド交通等の導入・改善

AIオンデマンド交通の導入・改善

- AIオンデマンド交通の実証運行と本格運行内容の検討（令和4(2022)～5(2023)年度の実証運行結果を踏まえて検討を深化）
- ◆ AIオンデマンド交通の社会実装と利用促進



ご利用ガイド

施策B-2 人や環境に配慮した施設や車両への改善

誰もが利用しやすい地域公共交通への改善

- 駅周辺のバリアフリー化（ときわ台駅周辺整備、光風台駅エスカレータ維持 等）
- バス・タクシー車両のバリアフリー化（ノンステップバスの拡充、ユニバーサルデザインタクシー配備 等）
- 駅・停留所環境の改善（時刻表、路線等の分かりやすさ向上、ベンチ・上屋設置、待合室改善、地域による清掃 等）



ときわ台駅周辺整備

環境にやさしい地域公共交通への改善

- 人や環境に配慮したバス・タクシー車両の導入（ハイブリッド、電気 等）

基本方針

D

「チームとよの」で使い支える未来まで走る地域公共交通

関係者の連携と役割分担のもとで、持続可能な地域公共交通を維持確保していきます。

施策D-1 地域公共交通を乗って育てる利用促進

鉄道・路線バスの利用促進

- ◆ 鉄道、路線バス、デマンドタクシー等が体となった「地域公共交通マップ」作成
- ◆ 小学校等における「鉄道・バス乗り方教室」の開催



地域公共交通マップ

IT・AIの積極活用

- 「阪急沿線アプリ」等による情報提供（路線バスの「バスロケーションシステム」活用 等）
- 「スマホ利用」の障壁緩和（中学生による高齢者向けスマホ教室での「AIオンデマンド交通」予約体験 等）



中学生による高齢者向けスマホ教室

施策D-2 地域公共交通の担い手確保

地域公共交通の担い手確保

- 交通事業者による担い手募集や育成
- ◆ 中学生の職場体験学習における能勢電鉄や阪急バス、京都タクシー等での受け入れ
- ◆ 町広報紙による担い手募集
- ◆ 町内への移住支援と連携した運転士不足解消の取組検討

町広報紙による
地域公共交通の
周知事例

